

Made in
メイド イン アキタ
AKITA



挑戦が実を結んだ 高性能マスク

コロナ禍のさなか、マスク事業に参入した由利本荘市の秋田医療福祉株式会社。抗菌抗ウイルス性素材を用いた秋田発の高性能マスクと、県内初のJIS規格適合の医療用マスクに注目したい。

純銀膜不織布マスク『アスガルド』は銀イオン応用で短時間でウイルスを低減。

ゼロから始めた医療用マスクの開発

介護福祉事業や不動産事業を手掛けている同社が、メディカルサプライ事業部を立ち上げたのは、世界的なマスク不足が続いていた2020年11月。佐藤龍馬社長は、計画的な備蓄を行っており、自社以外の地域の施設などにも備蓄品を提供して対応していたが、自分の周囲の人たちを守るためにマスク製造を決意した。「タイミングが遅すぎるという心配の声はありました。名刺代わりとなる自社製品を持ちたいという気持ちと、自分より若い世代に挑戦する姿勢を伝えたいという思いもあり、異業種に参入しました」。病院勤務の経歴を持つ佐藤社長は、その経験と人脈も活用し、持ち前の突破力で事業を推進した。マスクに応用可能な抗菌抗ウイルス素材を扱う企業と出会うと、自社製品とODM※製品の開発に着手。製造機械を輸入し、地元企業の協力を得て機械を調整しながら2020年12月にはサージカルマスク2種を完成させた。自社と委託元のECサイトのほか、医療・介護分野に広くチャネルを持つ県内企業と連携して販売を始めた。



スピーディーに海外へ展開

2021年6月に、国内で流通するマスクの品質向上のため捕集機能や通気性などを定めたJIS規格が制定され、同社では11月から県内初のJIS規格適合マスクも製造販売している。JIS規格の「医療用マスク・クラスI～III」に対応可能な材料と技術を備え、性能と呼吸のしやすさのバランスを意識して戦略的にクラスIを選択した。医療・介護施設に加え、一般ユーザーの需要も取り込みたい狙いだ。パッケージには県公式キャラクターを掲載し、メイドイン秋田をPRしている。

佐藤社長は現在、万博開催中のドバイを皮切りに、ロシアやスウェーデンなどのエージェントを開拓し、現地の病院など海外への販路拡大を目指している。用途に応じたODMやオリジナルマスクのOEM※にも対応していくため、春にはメディカルサプライ事業部を増員する予定だ。



弟の佐藤龍登副社長(右)とともに事業拡大を目指す。

「今後、新たに取り組みたい事業アイデアもあります。マスクの実績を積み重ねて、海外も視野に入れた事業展開を進めていきたいです」。

※ODM(Original Design Manufacturing)：製品の設計や製品開発も受託者が行い、委託者のブランドで製品を設計・生産すること。

※OEM(Original Equipment Manufacturing)：委託者のブランドで製品を生産すること。

秋田医療福祉株式会社

〒015-0051 秋田県由利本荘市川口字八幡前221-3
TEL.0184-23-7200 FAX.0184-23-7220 <https://akita-mw-inc.jp>

●会社概要

医療用機械・用品等の販売、介護事業、不動産管理・運営、マリーナ及びその付帯設備の運営、一般廃棄物の収集、運搬及び処理



代表取締役社長
佐藤 龍馬
さとう りょうま

